

2023年第2回定例会 一般質問

1.子育て支援策のあり方

ファミリーサポートの改善と産前・産後ケアを求める

本田:0か月から2か月の子どもはファミリーサポートも保育園も預かることができない。預かる仕組みや家事支援の制度は検討していないのか。

こども健康部長:小さい子どもを預かることは難しい。家事支援は社会福祉協議会の「あいはあと」を紹介している。

本田:ファミリーサポートが利用しづらいという声を聞いている。会員同士の交流の機会を作る予定はないのか。

こども健康部長:改善は考えてまいりたい。交流会は会員の希望を把握したい。

本田の視点

視察した千歳市、長野市は産後の家事支援などのサポートがあります。まだ育児に慣れていない、授乳や夜泣きで眠れないといった大変な新生児期の支援を朝霞でも実現したいと思っています。



3.学校施設の維持管理

校舎が劣化した二中の建替えと具体的な計画策定を求める

本田:二中は建替えが必要であるのに、補助金や債務を使った修繕を行うためにまた10年は建替えられないのではないのか。

学校教育部長:総務で確認している。

本田:具体的な改築の検討に入るのか。

学校教育部長:二中は最も改築の優先度が高いと位置づけている。学校施設の改築や大規模改修の時期等はこれまでよりスピードを上げて取り組んでまいりたい。

本田の視点

校舎が劣化し、水害の危険もある二中の建替えはまったなしです。公共施設と学校施設の状況を総合的に把握し、改築・改修計画を策定し、実行に移す必要があります。財政運営の中長期的な計画も含めて、引き続き市の行財政運営を厳しくチェックします。



6.水害への対応

6月の台風の際の避難所開設のタイミングは適切だったのか

本田:6月2日の台風による大雨の際、避難所開設が夜中になった。その日の午前中には気象庁から線状降水帯の発生と大雨の危険性が指摘されていた。この時点で避難所を開設し、自主避難者を受け入れるべきではなかったか。

危機管理監:河川の氾濫や大規模な内水氾濫は起こり難いと判断したが、その後気象台の予想をはるかに上回る降水量となり、気象台のほうへ改めて確認したところ、自主避難所開設を行うことと決定した。適切な判断を行ったと考えるが、自主避難所を早期に開設するなど、さらに柔軟な運用を心がけてまいりたい。

本田の視点

避難所が開設されるような大雨は久しぶりでした。高齢者や障害者、小さな子どものいる家庭など、早めの避難を求める人に対応することが必要です。市民の命と安全が最優先です。

朝霞市議会 YouTubeチャンネル
令和5年第2回定例会一般質問2日目(6時間47分44秒から)



2.精神障害のある方が地域で暮らすために

精神障害のある方が安心して暮らせる地域を作る取り組みを

本田:精神障害のある方を支える地域づくりのために、支援者の交流会を開催した報告を。また、緊急事態に対応するための仕組みづくりはどうするのか。

福祉部長:障害福祉関係者が顔の見える関係をつくるために、6月1日に障害福祉関係者みんなで考える交流会を開催。障害のある方への支援として予防的な視点での対応は重要であり、相談支援事業所連絡会や自立支援協議会等で事例検討を重ねてまいりたい。

本田の視点

精神障害のある方を支える地域福祉のネットワークを作ることが必要です。事業者の連携、対応のスキル向上を行政が支える取り組み、当事者の方の意見を聞くことなど、まだまだすべきことがあります。引き続き精神障害のある方の支援に取り組みます。

4.地域福祉の課題

民生委員さんのサポート役の配置へ具体的な取り組みを

本田:民生委員さんが相談対応に困った時のサポート役として地域からも求められているコミュニティソーシャルワーカーだが、社会福祉協議会は配置に向けた具体的な取り組みがない。社協ではなく市で配置したほうがいいのか。

福祉部長:目的やどういうふう配置していくか計画的に考えていかなければならない。社会福祉協議会ともよく協議し、積極的に協力してまいりたい。

本田の視点

民生委員さんから、住民の複雑な課題の対応を任せられ、相談相手もサポートの仕組みもないまま、奮闘しているとお聞きしています。社会福祉協議会と市は、コミュニティソーシャルワーカーという地域福祉の専門家の配置を検討していますが、他市の取り組みを見たりするなどの具体的な取り組みをしていません。

5.ガバメントクラウドファンディングの問題

寄附の集め方・使い道の透明性・公平性を厳しく求める

※ガバメントクラウドファンディング(GCF)とは、ふるさと納税の使い道を具体的なプロジェクトにして、そこに共感した方に寄付してもらう制度です。

本田:彩夏祭の花火の費用としてGCFで200万円集めるが、プロジェクトの決め方や予算案での説明が不十分ではないのか。

市長公室長:今年度は試行的に行った。次年度の予算編成時や各課からの随時の提案などを精査し、進めてまいりたい。

本田の視点

「市長が決める」と要綱に定められているGCFも、市の予算に上げられているものであり、その使い道の決め方は公平公正であることが求められます。また、今年度の予算書には明確に書かれていないことから、透明性を確保し、市民への説明責任を果たすよう求めました。